

# 農業

令和7年1月号  
会誌 No. 1726



## 目次

### 巻頭言

新年明けましておめでとうございます……………吉田 岳志 3

### 論壇

価格転嫁実現への期待……………富田 育稔 4

### ◇農事功績者表彰◇

令和6年度（第108回）農事功績者表彰式……………6

### ◇農業・農村担い手問題研究会◇

「農業・農村担い手問題研究会」の開催について……………14

研究会の設置と第1回研究会……………14

第2回研究会 食料安全保障の確立に向けて……………中森 剛志 14

質疑応答……………25

### 食を楽しむ

あの夏の日々……………岡田 猛 29

### ◇研究の最前線◇

タピオカドリンクブームの貢献者……………朴 壽永 30

—SNSと流行に敏感な女子学生—

### 農業・農村の現場から

農家の事業承継……………伊東悠太郎 40

—実践が当たり前前の農業界へ—

## 世界の農業は今

世界の食品ロス対策と食料安全保障……………小林 富雄 46

## 私の経営と志

石川県金沢市粟崎町でサツマイモ・スイカ栽培……………河二 利勝 52  
—挑戦と改善で未来を開く農業へ—

## 農家の気持ち

育つ・継げるということ……………藤井拓次郎 54

## 農政情報

…………… 55

編集部から…………… 55

大日本農会だより…………… 56

### 表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

#### 砂鉄採取跡地に開かれた棚田景観（島根県仁多郡奥出雲町）

中国山地の山間にある奥出雲地域は、約400年前の江戸時代から明治にかけて日本古来の製鉄法「たたら製鉄」が盛んに行われ、鉄を産出してきました。かつては原料の砂鉄を採取するため、鉄穴流し<sup>かんな</sup>という採掘技術で山々を切り崩し、採掘のために導いた水路やため池を再利用し、計画的に水田開発を行ってきました。また、燃料の木炭は、森林資源を枯渇させないよう30年周期で輪伐管理<sup>かんよう</sup>し、森林の水源涵養機能を維持しながら持続的な農林業が営まれてきました。

今日でも、森林の循環利用により水資源を確保し、町内で飼養される和牛の排せつ物を完熟堆肥にして水田に施用する昔ながらの米づくりが行われており、仁多米<sup>にたまい</sup>、奥出雲和牛、ソバ、シイタケなどのキノコ類の産地となっています。

たたら製鉄の営みを通して、資源を無駄なく利用する循環型農業、農文化や生物多様性、棚田のランドスケープ（景観）などが評価をされ、2019年2月に「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」として日本農業遺産に認定されました。先人が築き上げた資源循環型農業を守り、未来へつなげていく取り組みを進めてまいります。

（写真および文 奥出雲町農業遺産推進協議会事務局 谷山 貴宣）